

特別講演会

日本の甲冑～武具にみる生き物たち～

武士たちが戦闘用の武具として身に着けた甲冑。日本では古墳時代にはその原型があったと考えられ、2000年近い歴史の中で様々な形のもので登場しました。特に兜の多様性には目を見張るものがあり、武士たちが趣向を凝らした「変わり兜」には驚くような造形が見られます。

今回の講座では、ムカデやチョウ、シカ、貝やエビなど生き物をモチーフにした兜から、その多様性と魅力に迫ります。



鉄錆地法螺貝形打出兜
(松山市東雲神社蔵)



朱塗伊勢海老形兜
(松山市東雲神社蔵)



黒漆塗鹿爪形兜
(松山市東雲神社蔵)

日時

令和6年 **9月16日** (月・祝)
13:30～15:00

【講師：友澤明さん】

場 所 久万高原町産業文化会館研修室
(愛媛県久万高原町久万188番地)

参加費 100円 定員 50人

日本甲冑武具研究保存会評議員。西条市立小松温芳図書館・郷土資料室の元学芸員。専門は日本近世史・工芸・武具甲冑。好きな甲冑は子供のときに見て感動した厳島神社の国宝、紺糸威鎧（こんいと おどしよろい）。



参加には申し込みが必要です。

※お問い合わせ・お申込みは面河山岳博物館（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
※雨天等による中止の場合は、当日8時まで決定の上、電話連絡いたします。

フォームから申込可↓



参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡のみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	